

コミュニティ

No.	要 点
1	<p>あまり高い建物はよくない。お城の景観を守ってほしい。 50年先を考えて計画してほしい。 人が呼べるようなハコモノは必要。駐車場も必要。 コミュニティは利用者が限定されている。今ある劇場も実態は同じでは？ 本当に利用して欲しい人が来てくれない。 地方には文化施設がない。同じ国民なのに地方は文化施設の恩恵を受けていない。 食べる場所も必要。ちょっとした食べ物が置いてあるだけでも良い。 あまり大きなものではなく、小さいもの、普段使いできるものとの使い分けができるように。 駅に近い場所なら高齢化にも対応できる。 日本一の劇場にしてほしい。しっかりお金をかけてやってほしい。 丸亀城の石垣をまず優先した方が良い。市民会館は後でも良いのでは。 まずは石垣、次に市民会館ということをしっかりアピールしてほしい。 みんなの劇場が市民の生活に必要な施設を目指してほしいが、生きているうちに石垣を直してほしい。 広報にみんなの劇場の理念をしっかりとアピールしてほしい。応援してくれるはず。 またいろんな話を聞かせてほしい。 50年後も使えるような施設をつくってほしい。</p>
2	<p>市民会館が市民に必要な施設になることは分かったが、まずは丸亀城の石垣の復旧を。 地域の高齢者の問題、孤独死の問題は、市全体の問題である。 民生委員の後継者がいない。 みんなの劇場の理念は大変良い。市民がそれをしっかり理解しなければならない。 瀬戸芸も最初はみんなが馬鹿にしていたが、大きなイベントになった。 地域の文化の良さ、丸亀の文化は何かということを考えて、みんなでしっかりアピールしなければならない。 丸亀の文化として求める市民会館とは何かを考えなければいけない。 市民の文化を発信する場であり、受け入れる場でもあるはず。</p>
3	<p>アイレックスとの役割分担が必要である。 建物だけの施設ではいけない。中身が大事。 先にソフトを検討するという考え方は良いと思う。 運営体制が大切なのではないか？理念をしっかりと継続できるような人材育成が必要。 様々な団体が練習できるスペースを作って欲しい。専門的な施設や設備も必要だと思う。 市民交流活動センターや既存施設との役割分担と連携をしっかりと考えて欲しい。 公共交通機関でのアクセスや駐車場は必要。 コミュニティバスの充実も一緒に考えてほしい。 コミュニティセンターでチケットが買えるような仕組みが良いのでは？ 生活の身近なところにちょっとした目に留まる情報があれば、お客さんにつながる。 売れる環境を作ることが大事である。</p>
4	<p>コミュニティの部会は範囲が広く、地域の課題をそれぞれからヒアリングすることは難しい。 まずは、生涯学習クラブへの周知・説明から始めてはどうか。 生涯学習クラブは、自分達が楽しむことが起点になっている。 活動が自分達だけで閉じた団体があるが施設や学校への出前教室のようなスタイルで社会貢献している団体もある。 地域の課題まで見据えた活動はできていない。 自己実現の欲求からコミュニティ形成の欲求へとつながるようなきっかけが「みんなの劇場」でできるようになれば良いと思う。外部との関係を作ることで若い人などの新しいメンバーも増えるのではないかな。 文化はお金が掛かるものというイメージがあったが、社会包摂的なプログラムによって、社会コストを抑制することがよく理解できた。</p>
5	<p>保育所の移転先や消防の訓練塔はどうなったのか。 維持費や鑑賞環境を考えると規模は小さい方が良い。 劇場が社会課題に果たす役割については、劇場が自分を必要としてくれている誰かと出会ういわゆる「プラットフォーム」の役割を果たすことは、いま必要なことである。</p>
6	<p>劇場の利用度が低い。もっと使っていると思っていた。 利用度を上げるために、営業は必要。実績のある施設の真似をしてみてもどうか。 昔は学校で全員が市民会館で劇を観ていた。本物の芸術に触れることが大事。 小学校のために芸術鑑賞できる機会が必要。6年間で1回は必ず本物の芸術を見せてやりたい。 毎年のコミュニティ芸術鑑賞会は素晴らしい。ぜひ、全部のコミュニティに出前できるようにしてほしい。 高齢者の方も行ける施設とアクセス方法が必要。一緒に考えて欲しい。 ホールで聞く音楽は、体育館で聞くものとは違う。よい体験ができるように質の高い施設にしてほしい。 大きなホールはいらない。高松にも本物の質の高いアーティストは来ていない。 大阪から岡山さえも飛ばして福岡へ行く。しかし、小さなホールでも質の高いもの、アーティストが認めるホールを作れば、アーティストの方からやって来るのでは。 演目に相応しい最適な規模の施設を考えて欲しい。</p>
7	<p>芸能人が来るだけの市民会館は必要ない。 年間の維持管理費が高くなるのは大変だと思う。適切な規模のホールを。 お年寄り駐車場の問題がある。 ひとつだけ大きなホールを作ったらいいっていいことはない。文化団体や素人劇団は大きなホールは必要ないし、使いこなせない。押し売りで券を売ったり渡したりしてなんとか数百人しか集まらない。活動ができるような場が必要だと思う。1000人や1500人のホールに100人くらい入っているのでは発表者もつらい。 あまり大きなホールじゃなくて生活している市民が集えるものもいい。維持費とかも考えながら、市民の生活に寄り添ったような、気軽に行けるようなものにしてほしい。 設備だけはしっかりしてあげたら、より使い勝手がいいのじゃないか。 南部からは距離があるので、半日仕事、1日仕事になる。ちょっとしたイベントになるので、食事して感想を言い合ったり、よもやま話をしたりするような場所にしてほしい。</p>

8	<p>最近わかりやすい名前の施設が多い。例えば、善通寺の「こどもと大人の病院」、高松の「みんなの病院」。今回の基本構想は(仮称)みんなの劇場となっているが、みんなという視点でみるという意味なんだろうと思った。</p> <p>更正保護女性会に参加して、保護司と一緒に活動している。更正保護女性会はコミュニティの中の色々なつながりの中でやっているが、保護司会というのはあまりつながりが無い。法務省から再犯率を抑えるということが言われているが、自宅で保護司の方が面談する場合は、自宅というよりは、公的な施設であるコミュニティセンターはどうかという話もあったが、プライバシーの問題もあって、相談室もないし、そこまで繋がりを持っていくことは難しいということになった。保護司というのは、出所した人とのつながりで話をするので、どちらかというと地域とつながりが無い。それを少しコミュニティとの繋がりを大切にしていこう方向性が出ていると思うが、可児市ではどういう状況か知りたい。</p> <p>女性の会と保護司がひとつになった団体になっていて、そこで話をした中で、保護する人される人、監視する人される人という縦の関係や上から目線を変えなければいけないという話をした。</p> <p>少女の家も慰問して、料理を一緒に作って食事したこともある。花火大会や弁論大会も行ったが、そんな家庭で育つと非行に走るのも無理ないなというような家庭の話で、涙が出そうになった。</p> <p>今までの市民会館のイメージをどうしても持ってしまうが、話を聞いてなんとなくイメージがわいた。</p> <p>文学座が可児市に来るのはすごいと思うが丸亀でもできるのか。</p>
9	<p>人間関係が最も大切。その上での会館のあり方を考えていければと思う。</p> <p>コミュニティは人間関係をつくっていくのが大切なので、それが薄れている。今コミュニティの力が弱くなってきているということだから、衛さんの話はとてもためになった。</p>

養護施設等

	要 点
1	<p>虐待を受けたり、貧困やアルコール中毒等様々な理由で子どもを預かっている。 施設には調理員がいるので、施設に来ていない子どもたちにも何かできないか考え、ひとり親家庭等の子供達に子供食堂をしている。日ごろ全く自分の時間が取れない親御さん達が土日の5時間くらい自由な時間を持てるようになることで、家庭を円滑にしていく効果が得られている。 空手教室やダンス教室も行っており、子供達の表情もよくなって、不登校気味であった子供が学校に通うようになったり、自分に自信を持てるという変化が起きてきた。 まずは、お母さんのストレスを緩和させてあげることが一番である。そして家庭や家庭以外の場で社会的相続ができる環境を作ることが必要である。 また、ワークショップは人と人の関係性を作るものである。ワークショップで先生と児童との関係性を変えることもでき、そのことで普段言えない事を言えるようになったり、伝えられるような関係を作ることもできる。</p>
2	<p>子供達がどういう気持ちでいるのか、どういう理由でこれなくなるのか、子供達の気持ちにいつもアンテナを張っていないといけない。 このような新しい市民会館の建設手法や考え方で公共文化施設を造るなら全力で協力、応援したい。</p>
3	<p>育児相談の件数はすごく増えている。 児童相談所への虐待相談件数も相当数あり、その他の相談に対応できない状態。 発達障害を持った子供に、普通にできるよう指導すると逆効果になるのだが、学校の現場では普通の子供と同じようにできることを求められていることが多い。 一般の子供より、高い興味や能力を持っていることが多い。 子育て環境が昔と違うので、子供と接する時間がなくなったり、社会的相続が出来ないこともある。養護学校の生徒もどんどん増えていて教室が足りないくらいだと聞いている。</p>
4	<p>丸亀市には1,000席程度の席数があるアイレックスがある。アイレックスも後30年もすれば建て替えの問題も出てくるので、アイレックスと新市民会館の関係性が大切。 ひまわりセンターは、健康、保健、福祉、子育ての拠点としての建物だが、新しい市民会館がどのような機能を持つものか、現在ある公共施設がどのような機能を担っていくのか考えてほしい。 合併時に、市民会館のような施設は市内に1箇所でもいいということだったと聞いている。現在、アイレックスがあるので、新たに市民会館を建てる必要があるのかないのか、合併時の申し合わせによって、もう少し検討する必要があるのではないかと思う。 お城が、見るに忍びないような状況になっている。この時期に市民会館が必要かどうか、まず先にお城を補修していただきたい。7割は国庫負担だとしても、3割は負担しなくてはならない状況が生まれてきている。生涯学習センターも耐震補強しているし、そういうものを潰して、新たに建替えるという。耐震補強をしているので30年～40年は使えるのだから、新しい市民会館を建てることには反対しないが、先に延ばして、とりあえずお城を先に補修してもらいたい。</p>

障がい者等施設

	要 点
1	<p>障がい者の音楽は童謡だと思われているけれども、普通の若い子と同じだということを知ってもらいたい。 その人その人の個性が障がいと関係なく生きてくるようなものが多い。 市民会館へ一度も行ったことがない子が多いと思う。なかなか普通に社会に出て行けるような環境にないので、行きやすい会館にしてほしい。 劇場からアウトリーチもしてくれると非常にありがたい。 障がいを持っている子の方が感性が豊かだし、体験することが好きだ。</p>
2	<p>救護施設は、身体上又は精神上著しい障害があるために日常生活を営むことが困難な要保護者を入所させて、生活扶助を行うことを目的とする施設である。他の障害者福祉施設と異なり、身体障害・知的障害・精神障害といった障害の種類によって対象が規定されていない。 私達は「人間の尊厳」を尊重し、一般家庭と同じような生活が送れるような施設運営に努めていて、開所以来、各部屋に鍵はかけられていない。また、職員がルールを作らず、利用者が自分達で協力して生活することを原則としている。様々な活動を通して、地域に戻れるかもしれない、または地域に戻れなくても地域に貢献できる、地域にお返しできることを目指している。こうした中には市と協力して長い期間続けてきた事業も多い。 40年以上前から施設でコーラスをやっている。知的障害を持っている人も、しっかり練習してステージに立って発表する場を設けている。利用者の達成感につながっている。 これまでの市民会館は、物理的にも使い勝手が悪く、市民が気軽に散歩がてら利用できるような施設ではなかった。実施する事業もハードルが高く、厳しく、市民には縁遠いものだった。</p>
3	<p>レストランやカフェを、例えば認知症の方がスタッフになって行ったり、食事をするとか、NHKで「注文を間違える料理店」っていうのをやっていて、生き辛さとかあると思うので、そういう所へ行って安心できたり、コミュニケーションを取れる場があればいいのではないかと思います。 待合室での親子の係わり合いが気になっている。走り回ったり、暴れたり、大きな声を出したりして人に迷惑をかけているのに、その横で保護者の方がずっとスマホをいじっていたりすることが多い。そういう子供にスタッフが声をかけたり本を読んであげたりすると、結構しっかり聞いてくれる子供が多い。劇場では、時間があるお年寄りの方と子供や保護者が接することが出来る機会を設けて、関係性や学びを得られる機会をつくるのもいいと思う。そこに行けば誰かがいて、話も出来るし、悩みも打ち明けられるし子供も遊ばせてもらえるというものがあればいいかなと思う。 全国の小児科には熱心な先生もいて、先生自体が週に一度、読み聞かせをしているような人もいる。自分の病院の横にオモチャ館をつくっている先生も居て、週に一度だけ開放している。個人の努力でやっている人が多い。車座集会は丸亀にどうい人達がいるかということ把握するということが大切なのかも感じた。読み聞かせをしていただける人は探せば沢山いると思うのだけれど、どこにいるかわからない。観音寺の先生がきて音楽療法もやっているが、他に出来る人を知らないから、知り合いの伝で観音寺の先生にお願いしている。車座集会は、沢山の人間に繋がりを提供していけるものであるのかなとも思う。私達であれば発達障害のプロがいるけど、それ以外の絵を書ける人、音楽ができる人なんかの人は探すのに苦労する。</p>
4	<p>一般的な言葉で説明すると障害者ということになるが、私達は目の前のこの「人」とのやりとりの中で考えていくんですね。だから障害を持つという枠であまり見ないので、目の前の1人の人に対してやっていて、そこから広がっていくというイメージのほうが普段やっている部分がつよいので、そのあたりをどうやって新しい市民会館につなげて行ったらいいのかなと少し思う。でも聞いてたらこんな劇場があればいいなと思う。 地域の方とどういふうに関わらせてもらって、自分達の存在を認めてもらうかとか、地域の偏見というところを考えると活動もしているが、なかなか一歩前に出れない自分自身の弱い部分もあったり、どう地域と関わりをもって活動していけばいいのかという事に悩んだりもするけれどもalaではどのような変化があったのかが気になった。 今こんなことに困っているけれど、劇場で何かできる？っていうボールを投げてもらって初めてキャッチボールができるわけで、無理して関わりなさいとか、どうしたら関わられるかを考えるのは良くない方向だと思う。 福祉の価値観がすごく入っているようなイメージがあるけれど、丸亀市で行政がそれをしようとするのは私達にとってはとても心強いところがある。福祉の価値観と、今の価値観は全然違うので、価値の置き方が違うということも十分わかった上で私達も活動しているので、行政がそれをやることにはすごく価値があると思う。 自分達が良かれと思ってやっていることも、そうではないのかもしれないという、自分達の活動の方法を少し考えさせられる事もあるなと思った。 今は福祉の世界も市場原理が入ってきているので、自分達のところだけではやれないんだしたら、もうやらなくていいんじゃないですかという国の考え方なので、私達は自分達が大切にしたいこともやりながらも、この場を残すためにどうしていくかということも頭を悩ませている。</p>
5	<p>母体が精神科医療病院である。精神障害の利用者が圧倒的に多い。最近では法改正により、病院で長期入院よりも地域で見る風潮に変わってきており、施設のニーズが高い。精神病を患っている人がそのまま高齢者のサービスや老人ホームに行く場合もあり、そこでやっていくのが難しい人もいる。認知症の治療は病院の方でやっている。精神科の治療なので、高齢者施設では適用が難しい。閉鎖病棟で重度の認知症の方が入院している。 高齢化の問題のほかに、精神障害の中では今、発達障害の問題がある。低年齢化の傾向があり、3歳くらいから扱われる場合がある。統合失調症は減少傾向にある。また、そうした児童の福祉サービスを使いたい傾向もある。 医者が障害を作っているケースもあり、障害を全部福祉施設で扱うのかという疑問もある。特別支援学校に通っている家族からも、福祉の支援で何とかならないかという要望も多い。家族が機能しなくなっていることは社会全体の問題である。相談支援事業もやっているのに、世帯の中に親が精神病で養育できないとか、子が発達障害を抱えているとか、精神病の子どもが高齢の親の介護ができないとか、子どもの虐待などの通報もある。 感情のコントロール、自尊心が育たない人がある。孤独、孤立が一番大変な問題であり、安心できる他者と出会うことが大切。 目には見えないまちの課題にコミットする劇場があれば、劇場という言葉がいい。わくわくする。今までの丸亀市と違ったことをしようとしていることも分かった。今回の劇場のことで文化課がヒアリングしていることは文化課としてではなく、市のコンセプトでないといけない。文化課だけではもったいないし、広がらない。市としてこうやっていきたいということ、障害のある人ない人に関わらず、こうしたことを発信して変わろうとしていることをもっと知ってほしい。丸亀市は縦割り行政がひどい。残念。新庁舎になって、福祉部門ならワンストップの子どもから高齢者までの仕組みを作ればいいと思う。縦割りをインクルージョンできればよいと思う。 絵の展覧には力を入れている。書道家を招いたイベントなども関心のある人が多いのでやっている。施設内とか精神福祉グループ内というのが多い。外部の人との協働はできていない。新しい劇場で様々な人が大いに楽しめるかもしれないという期待が持てる。行きやすい機会がほしい。 一方で施設の利用者が将来に向けての心配は何かと聞くとやはりお金だという。生きていくためにはお金。施設利用者は、低所得の現実があり、例えば、低所得者でも行けるコンサートなどがあれば、お金がないと出会う場もないし、そういう所に自分から行って何かをするところまで意識が育っていない。そういう人も一般の人に混ぜてくれるとか、そういう意識を持ってほしい。またそういう施設利用者の側は障害に対して偏見があるので、劇場でみんなと混ぜるような仕掛けがほしい。 市民会館には行きにくさ、ハード面や経済面の問題があり、そういう要望しか出てこない。また、役割がどうあるべきかということも考える機会もなかった。本当にこれまでの常識を壊していかないといいけない。</p>
6	<p>アールブリュッドとは、教育を受けたアーティストによる芸術を孤高とし、障害者による芸術をその下に見るような「障害者の芸術」という表現をあえて否定する形で生まれた言葉であり、芸術にとって個人の属性は無意味なものであることを意味している。 代表者は元美術講師であり、現在は丸亀養護学校の卒業生を対象に毎月1回、生涯学習センターで絵画教室を行っている。 参加者は、在学中には絵を描く機会があったが、就労施設や企業に所属するようになってその機会がどんどん少なくなってきたとのことだった。現在は、公募展への出展を目標としているがなかなか機会に恵まれない状況であるとのことであった。健常者と同じような文化芸術活動の機会を得ることが難しいのではと感じている。 安心して依存できる人がたくさんいるという環境が誰にでも必要なことであるが、障害者にとって依存できる人が家族やヘルパーと限定的であるのならば、心を許せる時間や仲間がたくさんある状態を作ることが必要であり、劇場がそういう場所(居場所)になれば良いという意見が聞かれた。 参加していただいた方には、劇場の考え方について共感していただいたが、今後の課題としては障害者にとって様々な文化芸術活動に参加できる機会を開くこと、また、支援する側の活動の機会を開くこと、その賛同者を拡充させることなどが挙げられる。 また、参加者からアールブリュッド作品を商品として展開している団体の話を聞くこともでき、実際にその商品を見せていただいたが作品の色使いが独特で魅力的な商品だと思った。このように、商品として人の手に渡ることも大切な要素であると考えられる。 その一方で、障害者にとって、自分の生活を維持するための体力や筋力がまず大切であるという意見も聞かれた。</p>

7	<p>障がいがある方の中でも十分に働くことができるだろうという人を対象にしている部署では、障がいがある方の就労支援をしていて、施設の中で訓練をして、一般企業への就労を目指している。フルタイムで働けるようになる人は少ないが、1日4～5時間働けるようになると、社会で生きていくうえで自立して生活する為に必要なお金をある程度稼ぐことができれば良いということで、その方その方に応じて働ける場所を見つける就労支援を行なっている。一般就労できない方は、福祉的就労ということで、こちらの施設で活動している人もいます。</p> <p>就労するということは色々厳しい面もあり、クリアしなければいけないものも沢山あるけれども、もう少しステップアップしてもらわなければいけない人に福祉的就労をしてもらっているが、その中でも仕事をしながらその人の持っている力とかその人の得意な分野であるとかを引き出してあげられる場所になればいいと考えている。自信をつけてもらいながら働いているということも感じてもらいながら過ごせる場所でありたいと思っている。</p> <p>一般就労をしても3年くらいでパラパラと辞めてしまう人がいる。3割くらいの人は定着して働いている。その人の抱えている問題というのがあって就職して、一定期間で小さな問題行動を起こして辞めてしまう人もいます。働く人達が常に同じ人ではないことが多く、人間関係だったり、我慢ができなくなってしまうケースや体力的に厳しくなって辞める人もいます。</p> <p>重度障害者の方へは日常を過ごす場所という場所でもある。軽作業をしながら、生活介護(余暇的なこと)もあって音楽療法も行なっていたり、自分達で楽器を鳴らして楽しんでもらったりということもしている。外に出ること事態を楽しみにしている人もいます。重度の方は食から下の世話まで全て介助が必要な方がほとんど。</p> <p>香川県は養護学校を出ると福祉就労しか選択ができなかった。</p> <p>施設で夏祭りやパン祭り、冬はフェスタをしていたが、今年からは、ひとつにまとめたフェスタを行なうことにした。発表の場でもある。</p> <p>啓発活動でイベントを沢山やってきた。アイレックスで大きなイベントもやってきた。障がいのある方も障がいのない方も席を並べて、同じ会場で楽しんでほしいということで行なってきた。</p> <p>障がいのある方も障がいのない方も楽しめるものを使って啓発活動をしてきた。</p> <p>生活介護をしている子達は太鼓を叩く練習をしている。太鼓を練習しているとすごく音が響く。障がいがある子達は太鼓の響きが楽しい。そんな練習場所もあったらうれしい。</p> <p>生きがいやワクワクを生活の場に落としてほしい。障がいのある子は音楽は大好きな子が多い。ダウン症の子は踊るのも好きだし私がスターみたいになる子も沢山いる。</p> <p>こんな劇場ができることをすごく楽しみにしている。</p>
8	<p>夏休みは発達障がいの子を預かってくれる場所がない。専門的な知識も必要になる。デイにきている子はいいけれども、デイも日数に制限がある。お母さんがお仕事されたりしているし、総合会館以外でもそういう場が必要。</p> <p>デイにきている子ども同士もそうだけれど、親同士も同じような境遇の親御さんが知り合いになって仲良しになることは多い。</p> <p>小学校高学年になると、放課後等デイサービスで見てくれる場所に移るようになっていたり、養護学校や支援学級だったりに進むようになる。</p> <p>音楽療法を10人未満の生徒を集めて、を2ヶ月に1回やっていたり、絵画教室(療法)をやろうと思っているが、沢山の人数で行なえるような施設規模でもないの、新しい劇場でやってもらったらいいのかと思う。そういうことで子ども達が楽しいってことでスタートしないと療育にならない。まず遊ぶってことを基本にスタートさせるのがいい。</p> <p>音楽療法や体操などは、楽しいなという感覚から入って、コミュニケーションをとったりということでもある。感覚(五感)を鍛えることで成長するってことを期待している。</p> <p>自閉症の子供はシナプスが弱いから、楽しいという感覚から次につながるようにしないといけない。音楽とか絵画とか体操とか、昔は自然とできる場所があったけど、今は昔の遊びができなくなっているからこういったサービスが必要になってくるものもある。神経系の発達には6歳から8歳で終わる。</p> <p>最近の親を見てみると、携帯ばかり見ていて、子どもに関心がないようにも見える。発達障がいだけではなく、一般の子ども達も世代間を越えてつながれるような場所があってもいいのではないのかと思う。</p> <p>今の親の世代から、外遊びとかいうのができなくなっている。自分達がそういう育ち方をしてきているから子どもには外遊びを教えることをしないのではないのか。</p> <p>伴走型の支援ができる市民会館をつくっていただければと思う。80、50問題。子どもが引きこもりで、親が死にかけている世代とか、そういう人達をどうやって市民会館に連れてこれるか。そのあたりも大切にしたいと思う。</p> <p>引きこもりや居場所のない人達は、ネットカフェには行けることもある。ネットカフェの仕組みや、なぜ来れるのかを分析して、あれを市民会館でできないか。漫画図書館とかもいいのじゃないの？出かけるきっかけがほしい。</p> <p>中高生の発想って意外と大事で、勉強に関しても、学校の勉強以外で、子ども達が「これがやりたい」って集まれるような状況をつくる。そのための中高生のリーダーをつくれるみたいな仕組みはどうか。例えば、2時間は使っても無料にするが、責任を持って音楽とかダンスとか人を集めてやりなさいみたいな仕組み。自分達でルールを決めてやるみたいなもの。</p> <p>外遊びができるような場所もあったらいい。とにかく外でギャーギャー言って遊べる場所がほしい。開放感がある外で遊ばせる、天気の良い日に外へ出ると気持ちがいいということからスタートするだけでもいいような気がする。</p> <p>大げさに言うと、今は、ベースがスマホになっているから、子育てがついてきているみたいなところがある。昔は何もなかったから、色々みんなで工夫して楽しいことを探していたし、そうすることによって人ともつながりながら子育てができていたということもある。今は何でも揃っているの、何かあったら買ってきますとか、調べてみますとかいうふうになっている。</p> <p>携帯が普通になっている時代だから、市民会館でのイベントをスマホで配信してあげるとお母さんたちも来るかもしれないし、昔の遊びとか、高齢者とお母さんや子どもがつながる機会にもなるし、遊び方を高齢者から学ぶという感じになればと思う。高齢者の方もそこへ行くことによって自分も楽しいとかにもつながるし、寝たきりや在宅介護にならないように、子どもと接することで体を動かしたり、心が元気になったりすると思う。</p> <p>保育所の子どもとかがデイサービスに行ったりするが、その時のお年寄りの人の顔はすごくキラキラしている。認知症の方も、昔のことはすごく覚えているので、昔は何して遊んでいたのかとか一緒に遊んでもらったら、子どもの力も伸ばせるし、認知症の方の力も引き出せるなど思っていた。</p> <p>ケース会議を開きながらそれぞれの立場で沢山の人が関わられる場にしていくのがいい。こういうふうにすればお母さんが楽になるとかいうのをみんなで考えていって実践していく。</p>
9	<p>今は閉鎖されている感じ。ある意味自由奔放で、好きなことをやって、欲しい物を手に入れるという行動をする子が多いので、それを変えていくのは難しいとは思っている。支援学校を通じてここに来る子が多く、小さな頃から分離されて育ってきている。ここに仲間だけにいるという形をとっている。安心する部分はあるのかもしれないが、他者とのコミュニケーションは全くできない。</p> <p>この利用者の人の存在を知ってもらったら世の中にも出やすいと思うが、普段目にしないところにいるから、「この人なんだろう・・・」という目で見られる。それを無くすためには他の子どもとかかわりが大切なのかもしれない。関わられるような機会があればいいなと思う。自閉症の人とかを田舎の町中では見かけることがないので、外には出にくいという意識がある。小さい時からお互いに存在を知る機会があれば、認知してもらえのことは思っている。</p> <p>15年くらい前までは、市内の障がい者施設が寄って、芸能大会みたいなのをやっていて、寸劇や音楽を各施設が持ち寄って楽しんでた。結構盛り上がっていたがお金がなくなってやることができなくなった。もう少し施設を開放しなければいけないのかもしれないと感じる。</p>

NPO

	要 点
1	<p>中心市街地の建物や所有者の調査は15年くらい前に行ってデジタル化しているが結局使われないままになっている。丸亀市はお城と本島だけを大切にしているが、昔の町割が残っている城下町という歴史と魅力を大切に、有効活用していくことが大切。丸亀にしか残っていないもの、丸亀だけのものというものが何なのかをもっと大切にしてほしい。</p>
2	<p>丸亀市には子育て支援がある程度充実しているが、子育て世代の課題は全然減っていないと思う。丸亀は車社会だけど、車の免許を持っていない人もいるし、高齢者は免許返納している人もいるので、行きやすい立地条件が求められる。公共交通機関が少ないし利便性が悪い。企業と組んで何かできればいいのでは。外国人が増えているが、企業側で国際交流的なことをやれば、外国人が怖いという間違ったイメージが払拭されるのではないかと。これからは、市民生活は外国人抜きでは考えられない世の中になる。日本語を学ぼうとか英語を学ぼうとかという教室ではなくて、文化芸術でのふれあいの中で自然と学べるような環境があってもいいのではないかと。民間の高い英語教室は行けないので、住んでいる人同士で学べばいいと思うし、多様性も身につく。年取られてリタイアした人も、今までの職業や経験を活かした活躍の場があればいいし、そこが居場所になるような所があればいいと思う。毎年維持費がかかってくるし、市民会館が無くて生活の困っていないのだったら、コミュニティセンターとか生涯学習センターとかアイレックスとかの統廃合を考えてからつくったほうがいいと思う。文化芸術を使うと、人生の節目節目で、色々な関係ができ、繋がりができて、助かるというシーンが出てくる。そのための施設だから、中身をしっかりと決めなければいけない。</p>
3	<p>市民会館が自分達に関係ないという概念をはずして自分達の生活に近いところにあるということを知ってもらうということから始めたい。芝居や音楽は関係ないという常識をなくしてから、どういう機能を持たせたほうがいいのかということ話し合う機会にしたい。市が一方的に決めてきたことをパブリックコメントとか、説明会とかの延長線的なもので話す程度かと思っていたが、意外と熱い人達でビックリした。建物とかハコは結局のところ何でもいいのかと思う。建物とかハコを運営する人が一番重要だと思う。丸亀市民会館としては誰が核になって、どんな人達がいて進めていくのか、ハコを考える3年4年ではなくて、人を育てる3年4年であってほしい。今はそういう人達が建設に携わっていたとしても、今後こういう体制が継続するかどうかの保証がないのではないかと。車座集会在形だけのデモンストレーションで終わってほしくない。今からアーティストになろうとしている子にとって、発表する場がない。東京とかに行けば路上ライブとか出来る場所がある。路上ライブ的に使えるスペースを作って欲しい。市民会館という近寄りがたい感じがしていたが、いつでも来てもいいよという場所ができるといいと思う。個人レッスンもグループレッスンもできる部屋がほしい。</p>
4	<p>衛館長が経営して、館長の右腕のような人が携わっているから可児市のようになるわけで、公務員が運営するならば、2年3年で異動になって、考え方が変わってしまうのが心配だ。公設劇場は人でほとんどのことが決まってしまうといっても過言ではない。アイレックスや生涯学習センターは福祉事業団が指定管理を受けているが、丸亀市がどうしたいのかというのがいつも見えない気がしていて、今回の事業で実現するのかという不安がある。新しい劇場の創り方には賛同するが、ぶれずにやってほしい。意見を言っても全く反映されない丸亀市の行政については不信感しかないので、今回の新しい市民会館もそうなるのではないかと不安がある。そこを担保してほしい。NPOで安心して自分達の活動もできながら、行政と双方で頼りあっているようなものを創ればいいのかと思っているし、だからこそもっと歩み寄って欲しいと思っている。丸亀市として、他の部署の人にも歩み寄る働きかけをしてほしい。準備室の人事が凍結されるだけでも、話せば話すほどわかってくれるのではないかと希望感が沸いてきた。</p>
5	<p>「ひとづくり・地域づくり・支え合い」「ともに元気・いきいき・つながろう人とひと」を活動のテーマとして、誰もが気軽に立ち寄れる「居場所」の拠点作りを目指している。高齢者の居場所をオープンし、その後「みんなと地域が繋がる場所」「食を通じてコミュニケーションが取れる場所」をオープンさせた。昔は美術館で子どもたちのためのワークショップを沢山していた。また、ゲートプラザで雑貨店等のイベントもしていたが今はほとんど見かけない。地域と連携したイベントなど定期的に企画すればもっと利用者も増えるのではないかと。</p>
6	<p>丸亀市にそんなに情熱がある人がいるかどうか不安だ。人を育てていかないと続かない。新しい市民会館のプロセスの決定権は行政と議会にあると思うけれども、全く思考が停止した状態の行政と議会をなんとかしなければ、この新しい市民会館が実現する可能性が見えてこない。市長も変わる可能性もあるし、行政と議会に自分で考える力が無いのではないかと皆が思っている。この車座集會を機に行政も議会も市民も変わっていきかけとしてもらいたい。時代は緩やかに変わり続けているのだけど、私達がかたくなにわからないとか、聞く耳を持たないとかになっているので、それに対して社会包摂型劇場で皆さんに昼間の星を見る目を持ってもらうよう手を差し伸べていくというプロセスが、今もう始まっているのだと感じた。劇場は今この場にできつつあるし、これを形にするかどうかという問題はありますが、5年間で1万人、5年間すごくワクワクさせていただけると思うとうれしいし、私達も変化して行って何か形になればいいなと思うし、出来ることは何だろうと考えることもあるし、声をあげられる市民が変わっていくことも必要なのだと感じた。</p>
7	<p>日頃は、研修によって得た知識や体験を活かし、多様化した現代社会での男女共同参画、国際交流、福祉環境問題、元気なまちづくりなど、様々な分野で活躍している。劇場の考えかたについては、多様な活動の経験からも共感できるとの意見をいただいた。文化が薫る豊かな地域にとよく言われるが、そうであるならば東京が一番豊かなはずである。しかし、実際には全く豊かとはいえない。本当の豊かさとは、体温を持った文化であり、鑑賞のような一過性の癒しではないのではないかと議論のなかで、劇場とは利己的な人が集まる場所ではなく、利他的な人が集まる場所であればならないと思うとの意見があった。様々な社会問題がある中で「居場所」という表現が大変分かりやすかったとの感想も聞かれた。</p>

8	<p>丸亀は元気が無い。それは良くないということで組織を立ち上げた。日曜日やお城まつり、福祉フェスティバルなど丸亀の既存の行事に関わっていき、丸亀を元気にしようということになりNPO法人とした。活動としては日曜日やお城まつりなどで、市民が作った小物なんかを代行販売している。福祉フェスティバルでは愛の広場でやっているようなものを行っている。</p> <p>丸亀の歴史にも興味を持ってきて、丸亀を幕末の視点で捉え、丸亀の歴史起こしという活動をと通して、丸亀の魅力や歴史を発信する活動を行っている。</p> <p>宝月堂の斜め前に、江戸時代から続いている乾物屋があって、あれをどうしようかということを考えていて、残すべきだと思っている。</p> <p>京極庵というのがあるが、丸亀城を治めていた京極家は元々兵庫県の辰野から入封された方で、その時に随行した龍野でも商売で成功していた前谷という家来がいて、龍野氏が西平山に住むようになり、京極家と親交を深め、丸亀のために貢献された方が住んでいた。京極家のお殿様と将棋をした将棋盤があったり、色々なものが残っている。跡取りがないから、壊して駐車場になる予定もあったのだが、市内在住者が買うことになって、明治時代に活躍した女性の絵とか、お宝が沢山出てきた。8畳の広間と茶室があって、きちんと修復した。お茶会の見学とか作品の見学とかをしていたが、経費もかかるので、どうしようかと思っているみたいだ。宝月堂とか京極庵とか、線では繋がっていないが、点としてはいいので、人力車を走らせようと考えたりもしている。丸亀もお茶とかお花とかしている人が沢山いて、着物を着ていくところがない。京極庵でちょっとした集まりがあると人が結構来る。富屋町は町屋風の風情がある通りにした方がいいと思う。お土産物屋にするのじゃなくて、そこで市民の活動が出来る場とかにすると面白いと思っている。壊されていない、まだ間に合う資源も沢山ある。</p>
9	<p>丸亀市の情報公開の仕組みがよくない。この問題を早く解決しないと動かなくて済む人は動かないですよ。現在はそんな状況なのではないかと感じる。意見を聞いてつくっていくといっても、これを実現するためには、役所の中の風通しをよくしないと難しいのではないかなと思う。</p> <p>社会的包摂は92年にヨーロッパがEUになって、貧困とか母子家庭とかがある中で、それがくっつくときに、今までのやり方じゃ救えないぞと、例えば母子家庭というけど、調べてみると移民の人で言葉も喋れない働けない、福祉に頼ろうとしてもしていない、権利がないじゃないかというような、そういう人を複合的にどう救おうかと、今の制度や状況で救えない人を社会的排除と読んでいた。その社会的排除に対して複合的なアプローチを社会的包摂と言おうという話なので、EUは教育に力を入れて、みんな賢くしてそれで大丈夫だろうってやっていたのだけど、やっぱり限界がある。それでイギリスなんかは途中で気づいて、文化政策とか医療政策とか福祉政策をアートのものとくっつけながら別の改善方法を見つけてきた。認知行動療法という、医療の面でも薬に頼らないで行動力を増やすことで色々な解決を図る療法もちょうどでてきたから、そういうのとクロスして行って、衛館長の話が実際には社会的な実践なんだという背景があるということを理解した。</p> <p>劇場をどうするかというのはひとつの柱ではあるけど丸亀市の中の社会的包摂をするという観点で臨んでいかなければいけなくなってきて、かなり複合的に情報を拾っていかなければいけないだろうなと思う。2WAYコミュニケーションのアンテナ自体を他の関連部署も含めてやっていくことが最終的にはこの劇場のゴールに一番近いと思う。文化事務局が福祉部局に近づくのもそうなんだけど、逆に言うと福祉部署とか市の社会福祉協議会とか色々な部署が連携する土台ができて、かつ2WAYコミュニケーション的なものが必要だと思う。</p> <p>劇場で一番重要になるのはスタッフだと思う。館長は5年でいなくなるというが、その後が大切なかなと思う。</p>

高齢者支援

	要 点
1	<p>丸亀市も高齢化が進んでいて、高齢者が行けない施設をつくってもだめだと思う。通町や富屋町もシャッター街になっていて、まちに潤いもないので、市民会館の建設を機に、人が市外から呼び込むことで活性化に繋がり、市内の福祉等の手助けになるのではないかと思う。</p> <p>車座集会は、一回話をするだけでなく、次に繋げていくものだと思っている。可見市文化創造センターをHPで見たが、こんなのできたらいいと思うが、丸亀市民の意思がここまでついてこれていないと思うので、意識を上げていかなければいけないと思う。</p> <p>丸亀市にも意識の高い職員がいることに勇気もらったが、少し遅かったように思う。子供劇場に関わってきた徳島では1800人いて、子育て仲間で試行錯誤してきた。丸亀に引っ越してきた時にも、丸亀でと思ったが、丸亀市では難しかった。もっと早くこういう人が出てきてほしかった。ホールというと、本当にホールしか考えてなくて、それでは使えなくて、役に立たない。アイレックスも帯に短し褌に長しで困っている。お芝居もできない、音楽も出来ない、じゃあコミュニティのっていうとそれもできない。各コミュニティも立派なものが建っているが活用はできていないと思う。口でいう人は多いが実行できる人がいない。各代の市長も議員も「言ってください」とは言うけれどもあなたが実行してくださいと思っている。</p> <p>市役所では色々なことをしていると思うが、それぞれの接点があると思うが、他部署との接点はないのか。丸亀の福祉の関係の委員会に2つ3つ呼ばれるが、結局一緒にやったらいいんじゃないかと思う委員会が結構あって、どこの委員会で言ったかなということがよくある。同じようなことを違う委員会でよく言うことがあるが、なぜ市役所は中で話し合えないんだらうと思う。今貧困に苦しんでいる人達は島の人達で、医療も介護も受けられない状態にあるというのがずっと続いている。そんな事は無視して生活保護の手続きばかりをやっていると思っている。だから、今回のプロジェクトも誰がちゃんと責任をもって、広い目で他部署との関連もするんだよということを実行してくれる人がいないと、またバラバラになって大きなところの文化を中心とした人の幸せを考えることに繋がらないんじゃないかと思う。</p> <p>年長と小学校低学年の子供がいるが、子供のエネルギーがあり余っていて、市民会館に託児施設があると、子供が気軽に文化芸術に触れられる機会を確保できるのではないかと。芸術に触れるチャンスがないし、親世代が文化芸術に触れていない人が想像以上に多い。</p> <p>市民会館で行う事業は収益があがるのか。</p> <p>香川県にこんな公共劇場はないからワクワクする。車座集會をしているというのは市役所職員全員が知って語れるというくらいになってほしい。</p>
2	<p>ベッド数が変わらないのに高齢者は増えていく。この足りない部分は在宅介護でまかなっていくというのが、国の施策で決まっていることなので、患者さんの意識としても、必ずしも通院や入院をしなくても治療やケアができるというのを今からやっていかなければいけないことだと思う。</p> <p>体の調子が悪くなったら、とりあえずは病院には行くけれども、入院までする必要がない場合は在宅看護で看れて、最終的には看取りまでできればいいなと思う。</p> <p>施設に入るかどうかは、家族が介護できないから入れる。逆もあって、どうにか帰ってきてほしいという家族もいる。本人の意思だけではどうしようもできないということはある。</p> <p>後は金銭的な問題。日中独居が恐いから施設に入ることもあるし、日中に家族がいる、いないに関係なく、医療的な処置が必要なケースもある。</p> <p>一人にだいたい30分か1時間くらいは訪問看護にかかる。家族がその場に居ない場合が多い。</p> <p>医療は調子が悪くなったら受けるというサービスだが、もっと早くごはんを普通に食べさせてあげたら、もうちょっと予防ができたのではないかと人がいるので、宅食サービスもしている。</p> <p>認知症カフェに来ている人は、漠然と不安を持っている人が多い。このまま悪くなっていくのかとか、周りが認知症になっていく人もいる中、不安要素が根底にありつつ、それをなんとかしたいと思いつつ来ている人が多い。だから、認知症になってしまった人に対して何かをするのではなく、その前段階の不安を取り除く知識や情報といったものを得ることによってカフェに来る意味合いもある。文化的な部分でもつながれる可能性はあると思う。</p> <p>介護や福祉側から劇場に発信して行って、市側が受け止められるだけのキャパがあれば、どんどん発信していけるし、つながりもできると思う。</p> <p>行政と民間が簡単につながれる、情報のやりとりがどこまでできるのかというところがある。地域包括支援センターとか足しげく通ってやり取りしているが、市のほう拾い上げられない端っこのほうの人は僕らが拾い上げていくということができたらいいなと常々思う。誰が何をするかは後でもいいと思うんだけど、こういう人がここにいて、こんなことに困っているっていうのがわかっていけば、そこから振り分けしていければと思う。</p>
3	<p>自宅から動けない高齢者が多くなっている。</p> <p>家族はいるが、日中は自宅で一人である。</p> <p>元気がなく、テレビを見ているもいつのまにかベッドで寝てしまう人もいる。</p> <p>趣味を持っていない人は、悪循環となって徐々に体力がなくなってくる。</p> <p>せめてデイサービスに来る意欲が出れば、活動もできるし、体も心も動いてくる。</p> <p>つながりができて、自分から動こうとする気になってくれる。</p> <p>デイサービスの利用者同士が楽しみ関係づくりをできるような仕掛けが必要。</p> <p>福祉施設の担い手が不足している。外国人も含め人材の育成が必要。</p> <p>福祉行政そのものが縦割りで考えている。</p> <p>高齢者は高齢者、子どもは子どもという考え方ではなく、人間の人生を包括して考えるべき。そのために文化は大切だと考える。</p>

文化関係

	要 点
1	<p>アイレックスは音響設備がいいのに、商業利用が多く、音楽や演劇の催し物を旧綾歌町がやってくれなかった。だから自分達でやればどうかという理由と、中学校が荒れてきたことに対してどうしたらいいのかということで、小学校5年生を対象に、オーケストラと一緒に歌わそうという情操教育の中で心がまっすぐ育ってほしいということはずっと行ってきたが、合併後、市の協力が得られなくなったことから、丸亀の第九を支えていこうという運営をしている。社会包摂的運営を行っていくなれば、営利目的の民間が運営したのでは無理だと思う。</p> <p>アイレックスがこのままではダメだと思ったので、あやうた音楽祭というものを創って、22年間盛り立ててきたが最近も参加者がどんどん増えている。町内の皆さんから寄付を頂いて行っている。</p> <p>早く欲しいという意見はあるが、5～6年はあつという間だと思う。娘の年代からすると、アイレックスがあるのに、新しい市民会館なんてそもそも必要なのだろうかと思っているみたいだ。</p> <p>alaの大ホールは1,000席だけど、誰が出たって満席になることはあまりない。1,500とか2,000のホールを作るなんて行政の驕りだと思っている。</p> <p>年間450以上の事業を行っているのはどこがお金をだしているのか。⇒可児市からの指定管理料、国からの補助金。丸亀市にそんな事ができるのか。あやうた音楽祭の手伝いをしていた時に、年配の方や体が不自由な方も含めて、皆が笑顔になってきて、歌って皆を元気に出来るし、自分も元気になれる。社会的な弱者がそのような文化芸術に触れる機会は限定されているし、触れられない方もいる。地域で生活していても場が限定されるので、劇場の殿堂ではなくて人間の家ができればいいと思う。</p> <p>市民の人達はほとんどの人が賛成だと思う。</p> <p>運営者がしっかりしていないと無理だと思う。</p> <p>ホールを建てて3年くらいはしっかりやってくれるんだが、その後は、じり貧になっていくものが多いのを何とかしてほしい。</p> <p>旧市民会館が無くなってから文化団体がアイレックスを使うようになったかという、なっていない。商圈や距離感というのは大きな意味を持つので、丸亀市のホールがアイレックスだと言い切るのは無理がある。</p> <p>新しい市民会館は、観音寺に出来たようなものだと思っていたので、今日の話はビックリしたし、目からウロコだった。楽しみだし、丸亀市に期待したい。</p>
2	<p>乳幼児と母親が過ごしやすい場所やイベントがほしい。</p> <p>日頃から練習できる場所がほしい。</p>

その他

	要 点
1	元々発達障害を持っている子供や家庭のコミュニケーションがや愛情が不足している子供、寂しいと感じている子供が多い気がする。虐待を受けて育った子供は、虐待をしながら子育てをする傾向にある。
2	私達の活動も多様であり、今後の車座集会で具体的にどのような関わり方ができるのかを検討していきたい。
3	これまでは、生産性のない仕事、商売にならない仕事はメリットがないという意識があったが、介護に携わる人間として、私たちには、心の栄養とか人とのつながり、地域の力になるといったことがとても大切である。 つながるために人が集まる場所、考える場所、ふれあう場所が必要であり、みんなが行きやすく楽しい場所になる劇場を市役所や衛館長が作るわけではなく、私達を含め市民みんなで作るものではないか。
4	建設予定地がどこになるのかに関心があったが、土地代もかからないし、生涯学習センター跡地あたりがいいなと思っていた。 旧市民会館で満席になったというのはほとんどない。議会の中で2000人規模のものがいいとか言っている人もいると聞くが、丸亀市の中で2箇所も大きなホールを建てて維持できるのか、経営がうまくいくのかと考えていた。今までの市民会館の考え方を根本的に考え直し、社会包摂的な経営ができるのであれば、いいのかと思う。広域で建てたほうがいいとも思っていたが、考えを改めた。 ボランティアで子供の見守り隊をしているが、事故があったらどうするんだとか、事故があったら見守り隊の責任だとかいう考え方になっているから、ボランティアが集まらない。青パトがあるが、車を運転して事故が起こったらどうなるのかとかを先に言われると、誰も運行できない。そういうところがあるのは意識を変えていかなくてはいけないと思う。車座集会などで根本的な考え方を変えていくことも必要だと思う。 県外の人に、丸亀市は沢山街の資産を持っているのに何も使っていないじゃないとよく言われる。丸亀市は丸亀城は大切にするんだけど、その周りを大切にしないんです。今遺産がどんどん無くなっているんだけど誰も気付かない。 日本は外のものを色々取り入れてきたが、今回の劇場についても同じような気がしていて、我々市民がこれをどう受け入れるかというギャップを埋める活動を車座集会でもしているのだと思うが、人の心は簡単に変わらないし。そのギャップを埋め方や本当に市民に浸透させる方法や、真意が何かという事を市民が考えているかという、そんなに考えていない気がする。 本当に必要な価値のあるものが、まちの中に沢山あるのに皆ゼロになっちゃう。 こういう構想に乗って来たのが、強い意志を感じる一番のところだが、社会包摂というのは、民主党政権下で打ち出した一つの考え方で、違いを強調する人達にとっては拒否をしがちだとみているが。丸亀はこんなことが起こっているという空気をつくる戦術も必要なのではないか。 市民は諦めることに慣れている。そんな良い事言ったらってできないだろうとすぐ言われる。そこを克服するか。現実があるのに現実を見ていないのが日本人だし、これを変えるは難しいと思う。これをひっくり返すしかないんだろう。
5	ハコモノをつくるのではなく、今日話してくれたような劇場をつくるのがいい。 寄る所、集まるところがほしい。神社やお寺みたいな存在の市民会館。自治会は今崩壊しつつある。お隣さんとの連携や鎮守の森的な存在に文化や芸術がなるのかもしれない。 今までのやりかたを変えていかなければいけないと感じる。 子育てに困っているおかあさん方は結構多い。 祭りも若い子が出てこなくなったし、「あの子誰よ」みたいに近所の子を知らなくなった。つながりがなくなった。
6	alaの雰囲気を見たい。話はよくわかるがこれまでの常識ではないのでイメージしにくい。 そういう劇場にするというならば、場所やハコがどうこうと言うよりも、そこを運営するスタッフが大事だと思う。結局、人ですね。 市民会館はもう全て決まっているという噂が流れているが、車座集会に来て違うということがよくわかった。次は音楽関係者をもっと呼んでくることにする。 この考えを次に引き継いでやってくれる人を確保しないと。絶対にこの意思を残す人を育てないといけない。 アーティストとして発表する機会や場のことを考えてきたが、施設としてのコンセプトはすごくよくわかったし、いいことだと思う、次回はアーティストとしていったい何ができるかを考えてくる。
7	反対するところはひとつもないが、誰が、いかにしてやるかというところが大切。 外部の人を呼んで車座集会をやるのではなく、市の職員がやったほうがいい。 今まで文化活動を続けてきた、力をつけている団体にこういう趣旨でやることを追加してくださいと言うべきではないか。 ハードも並行して検討していかないとダメだと思う。 都市づくりは失敗例もあるけれど、だいたい成功して行って、いい都市づくりをしていったところが都市の機能がどんどん高まって、都市間競争の中で勝ち抜いていくんじゃないか。都市づくりも競争に勝って、人々がそこに住みたいという想いの都市を作らなくてはいけない。そうすると、その様な中で文化とかスポーツはどのような位置を占めるんですかということが大切。経済性も重要だが、都市づくりの中で文化がない、スポーツがないというのは都市づくりとしては欠陥だと思う。 まち創りとして、現庁舎と都市公園を空間にしたというのは、一流の建築家も素晴らしいと言っていた。 本当に丸亀市にとって一体何がいいのかを、真剣に腹を割って話したい。 何かできることがあるなら言ってほしい。 次回も期待する。